

1. 平成28年1月～3月期の景気動向

今期のDI平均値は△39.4ポイントで、前期(10～12月期)の△27.0ポイントから12.4ポイントと大きくマイナスとなった。建設業、卸売業、サービス業でマイナスとなっており、建設業では来期(4～6月期)の見通しも大幅なマイナスとなっている。また、全体的に、熟練技術者・従業員の確保難を問題点と挙げている事業所が増えてきており、人材確保も課題となっている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 18 (△ 31) 	△ 45 (△ 31) 	△ 26 (△ 19) 	△ 24 (△ 24) 	△ 25 (13) 	△ 50 (△ 38) 	△ 45 (△ 37) 	△ 57 (△ 50) 	△ 52 (△ 5) 	△ 6 (△ 30)
採算		△ 40 (△ 38) 	△ 80 (△ 54) 	△ 29 (△ 37) 	△ 27 (△ 29) 	△ 25 (△ 12) 	△ 25 (△ 50) 	△ 36 (△ 40) 	△ 57 (△ 42) 	△ 55 (△ 35) 	△ 39 (△ 40)
資金繰り		△ 27 (△ 38) 	△ 36 (△ 38) 	△ 13 (△ 13) 	△ 24 (△ 18) 	△ 25 (△ 13) 	△ 13 (△ 13) 	△ 27 (△ 25) 	△ 32 (△ 23) 	△ 37 (△ 27) 	△ 17 (△ 26)
業況		△ 55 (△ 15) 	△ 60 (△ 46) 	△ 27 (△ 29) 	△ 31 (△ 20) 	△ 43 (△ 25) 	△ 29 (△ 43) 	△ 27 (△ 40) 	△ 38 (△ 36) 	△ 45 (△ 26) 	△ 35 (△ 39)
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		製品(加工)単価の低下		店舗・倉庫の狭隘・老朽化		消費者ニーズの変化への対応		人件費以外の経費の増加	
	3位	請負単価の低下		製品ニーズの変化への対応		販売単価の低下		需要の停滞		大企業の進出による競争の激化	
業種別 コメント		<p>今期状況、来期見通しともに大幅なマイナスとなっている。 春先の新築工事、改築工事ともに需要が停滞しており、依然厳しい状況が続いている。 経営上の問題として、需要の停滞の他、請負単価の低下と材料価格の上昇が挙げられており、その影響が採算の来期見通しに現れている。</p>		<p>今期状況、来期見通しともほぼ横ばいとなっている。季節商品の需要停滞が続くなか、来期の受注確保が上昇傾向でないため資金繰りにしわ寄せが生じる可能性がある。 加えて製品(加工)単価の低下、原材料価格の上昇が問題として増えてきており、採算が合わない状態である。</p>		<p>年末需要の反動か、今期は売上高が大きくマイナスとなった。 需要の停滞に加え、小売業の進出による競争激化が問題として挙げられており、来期以降も厳しい状況が続くそうである。</p>		<p>購買力の他地域への流出の他、大型店・中型店の進出、更にインターネットの普及による通信販売等と地元購買力の減少が続いている。 季節が変わり商品が流通する時期であるため、消費者へのアピールを一層強化する必要がある。</p>		<p>今期売上・業況は前期(10～12月)に比べ大幅なマイナスとなっている。 新年会、送迎会の需要が減少し、さらに材料の高騰もあり、利益を圧迫している。 来期の見通しは回復傾向にあるが、人件費以外の経費の増加や店舗施設の狭隘・老朽化が問題として挙げられており、経費の増加が課題となっている。</p>	



※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※()は前回調査時のD・I値